

# うじいえ 自然に親しむ会だより

(ダイジェスト版)

第7号

平成18年10月10日

編集・発行

うじいえ 自然に親しむ会事務局

さくら市ミュージアム

荒井寛方記念館内

※ ダイジェスト版では個人情報、管理上のノウハウ等で  
オリジナル会報の内容を一部掲載していない部分があります。  
ご了承ください。

## ☆☆ 平成18年度 定期総会終る ☆☆

うじいえ自然に親しむ会の平成18年度定期総会が6月4日(日)13時30分から、さくら市ミュージアム 一荒井寛方記念館一 講座室で開催されました。参加者は会員など約40数名でした。

はじめに加藤啓三会長から「会員の皆様はもとより、さくら市、さくら市ミュージアム、国土交通省氏家出張所、東京大学保全生態学研究室等のご理解とご協力を賜り、本会は、4年目を迎えることができました。」との挨拶に始まり、次のような今年度(平成18年度)の新しい取組みが説明されました。

- ・ シルビアシジミの保護のためのパトロールの実施
- ・ シルビアシジミの採集を禁止した「立て看板」の設置
- ・ 小学校4年生を対象とした紙芝居「シルビアシジミ物語」の製作
- ・ 本会の行事に使用している「腕章」のほかに「のぼり旗」の作成

また、5月24日には高橋俊守先生が率いる宇都宮大学農学部の2年生30名が、鬼怒川河川敷で「地域生態学演習」を実施した際に、本会も依頼を受け河原の生態、特にシルビアシジミや食草ミヤコグサについて説明を行い協力した旨の報告があり、今後は東京大学に次いで宇都宮大学とも連携ができたものと思われます。

木札の取り付けについては、来年の5月12日(土)に「栃木県植樹祭」がさくら市運動公園(桜野)で実施されることになりましたので、私たちも準備をしていきたいと思っています 等々のあいさつがありました。

次に副会長の田代英夫さんから本会の趣旨説明、並びに平成17年度事業報告があり、会計の船津幸夫さんから同決算報告、監事2名を代表して薄井敬二さんから監査報告がありました。

続いて平成18年度事業計画(案)、同予算(案)、新役員選出が提案され、一括審議され全員賛成で承認されました。

## ☆☆ 記念講演「鬼怒川（さくら市）の河原の蝶」 ☆☆

6月4日の総会後、午後2時から自治医科大学名誉教授葛谷健先生による「鬼怒川（さくら市）の河原の蝶」と題して、記念講演が行なわれました。

葛谷先生は自治医科大学名誉教授で糖尿病の権威で、著書も多数あります。

また、日本蝶学会会員、鬼怒川河川敷で貴重な蝶の生態写真を数多く撮影するなどして、保育社等から昆虫図鑑を刊行されています。



さくら市ミュージアム講座室で  
自治医科大学名誉教授 葛谷 健先生による記念講演

講演の内容については、その項目のみを紹介します。

- 1 日本の環境いろいろ
- 2 栃木県と鬼怒川（さくら市）の河原の蝶
- 3 鬼怒川河原（さくら市）の蝶
- 4 アゲハチョウ科とシロチョウ科
- 5 栃木県内の蝶の分布（モンキチョウ・ベニシジミ）
- 6 シジミチョウ科
- 7 栃木県内の蝶の分布（シルビアシジミ・ミヤマシジミ）
- 8 ジャノメチョウ科・セセリチョウ科・タテハチョウ科
- 9 シルビアシジミ
- 10 ヤマトシジミとシルビアシジミ
- 11 ヤマトシジミとシルビアシジミの分布
- 12 シルビアシジミの食草—これまでに記録された食草—
- 13 ミヤコグサの管理地
- 14 蝶の保護活動→ もっとも危ぶまれているのは草原の蝶である
- 15 栃木県で減っている蝶、増えている蝶
- 16 鬼怒川のシルビアシジミをどうやって殖やすか

## ☆☆ 鬼怒川の自然観察会 約30名参加☆☆

総会に先立って午前10時から、鬼怒川の自然観察会が行われました。記念講演の葛谷教授・宇都宮大学名誉教授中村和夫・元博物館専門指導員・田代俊夫先生らの指導のもとで会員・親子連れ約30名が自然観察会に参加しました。

ミュージアム地内里山を通って途中で本会のミヤコグサ管理地を見学し、鬼怒川沿いを「ゆうゆうパーク」地内上流も観察しました。珍しい昆虫や植物も見学でき楽しい時間を過ごすことができました。

## ☆☆ カワラノギクの播種に協力 ☆☆

4月22日（日）鬼怒川河川敷に生息する貴重な植物（カワラノギク）の保護活動として、国土交通省下館河川事務所氏家出張所、東京大学生態保全研究室が主催する事業に本会も連携し、協力事業の一環として参加しました。

当日は一般市民や小学生親子も含め約80名の参加となりました。氏家大橋上流の河原で絶滅危惧（きぐ）種「カワラノギク」の種まきと外来植物シナダレスズメガヤの駆除作業に汗を流しました。

鬼怒川中流域の河原は、丸石と砂が入り混じった砂礫質河原で、全国的にも貴重な珍しい動植物が生息しています。しかし、砂防・治山工事などで土砂が崩れないように植えた外来植物のシナダレスズメガヤが繁茂し、カワラノギクやさくら市天然記念物のシリビアシジミの食草ミヤコグサが生育できなくなっている状況にあります。

種まきは、カワラノギクとミヤコグサの2種類を約21万粒まきました。

喜連川から参加した親子は「草むしりは大変だけど、自分がまいた種が大きくなると思うと嬉しい。」「自然の保全活動に参加することは、気持ちがいいですね。」など、笑顔で話をしてくれました。



氏家大橋上流の河川敷で

播種前に東京大学保全生態学研究室の先生の話を聞く。

## ☆☆ ホタルの軌跡に歓声！ホタル観察会に52名が参加 ☆☆

7月1日（土）ホタル観察会が「ゆうゆうパーク」の小川で行なわれました。会員ほか一般の親子連れなど52名の参加者がありました。午後7時半ごろからホタルの飛び立つのを待ちました。日が沈み、周囲が暗くなり始めると、小川の清流の上をヘイケボタル20匹位が飛び、その軌跡に歓声が上がり賑やかな観察会になりました。

はじめて見るホタルの光の点滅に歓声が上がる一方で、手に取ってじっくり観察する小学生もいました。夕闇の中を光の粒が舞う姿に、ホタルの観察会ができたことを心から嬉しく思います。小川には幼虫の餌となるカワニナが増えています。ホタルの生息環境が整備され、将来はたくさんのホタルが見られることを願っています。

## ☆☆ ホームページの開設 ☆☆

8月1日 念願だった本会のホームページがR & Fパソコン教室（福島徹さん）のご尽力により開設できました。インターネットを利用している方は行事予定や新着情報を聞いてご覧下さい。

なお、さくら市役所のホームページから「リンク」→「市民活動団体」で、またはヤフーの検索で「うじいえ自然に親しむ会」と入力してもご覧になれます。

本会のURLは次のとおりです。

http://www16.ocn.ne.jp/~ujisizen/

## ☆☆ 勝山公園内の樹木一覧表が完成☆☆

8月1日 田代英夫副会長と笠倉理恵（ミュージアム職員）さんのお骨折りで、勝山城址公園平面図に樹木名が入り一覧表が完成しました。

## ☆☆ 鬼怒川 監視パトロール報告 ☆☆

某月某日 午後2時～3時 曇り

自宅を出てすぐ国交省氏家出張所南200メートル附近で捕虫網とカメラを持った男性に出会う。群馬から来たという。年齢は30歳前半か。10年程前にも来たことがあるとのこと。シルビアシジミが目当て？

自然に親しむ会のメンバーであることを告げ、この辺一帯は昆虫植物の採取が禁じられていることを話す。「いつから、どこからどこまで」などと尋ねる。市の天然記念物の指定であること、阿久津大橋から氏家大橋上流まで含まれるなどと説明。

「希少種なら愛好家に繁殖をまかせてはどうか、保護、保護と声高に叫ぶだけでは植えないのでは・・・」というのが彼の主張。一方で「インターネットでは標本として高値で売買されている・・・とも。「私共は採捕を止めてもらうだけでなく、食草の保護・繁殖も行なっている」と説明すると納得。ガンバッてくださいと云われて別れた。

某月某日 午前10時10分～11時30分 曇り

まず上流の運動公園へ。堤防の階段を上がると花火の燃えカスが散っている。河原の草地（先頃シナダレスズメガヤを抜いたところ）を男性2人が何かを捜すように歩いている。背中にはディバッグ、何も手にしてはいない。しばらく見ていたが不審な様子なし。下流へ向かう。ゆうゆうパークまで行って戻る。国交省氏家事務所附近まで来たとき、河原に見覚えのある男性が2人いる。誰かを手招きしていると、もう1人が腰から折りたたみのネットを取り出した。さっそく河原へ降りて声をかけた。

車は春日部ナンバーのカローラ。「研究者ですか?」、「昆虫愛好グループ」との答え。この一帯は昆虫の捕獲は禁止されている旨を伝える。[「罰則はあるのか」](#)という質問に「ない」と答えるとともに、私どもは保護活動・食草の増殖活動をしていることを話すと腕章を見ながら納得した様子。

「ツマグロキチョウ・ミヤマシジミが見られて満足」といって引き上げていった。

#### ※ 罰則について

[罰則はあります。「さくら市文化財保護条例」第48条で保護されており、これに違反したものは5万円以下の罰金または科料となります。詳しくは、さくら市役所のホームページから「さくら市例規集」→「さくら市文化財保護条例」を参照ください。](#)

某月某日 午後1時～2時30分 晴れ

ゆうゆうパークへ向かう。堤防に上がると早々に、国交省氏家出張所前の階段で捕虫網を手にした男性を発見。しゃがみ込んで捕らえた蝶を手にしている。「ツマグロキチョウですか?」「え!! そうです。アッ!ここは捕っちゃいけないところなんですか」男性が私の腕章を見て、すばやい反応。「え、実はそうなんです。」

上尾市（埼玉）からやってきたという。高校時代以来中断していた蝶の世界への趣味を再開した「団塊の世代」という。「今日は今市の大沢から下ってきた。」とのことだから、大谷川から鬼怒川へということか。会の活動の話をすると「私は看板の仕事をしている。立てる時は協力したい」といってくれる。会のホームページのアドレスカードがあれば良いと感じた。その後、上流の運動公園まで行って戻った。

某月某日 午後1時20分～2時10分

国交省氏家出張所そばの河川敷で50代とおぼしき男性と出会う。堤防の上にマウンテンバイクが止めてあるので、おそらく地元の人と思われる。

「宇都宮からです」との答え。「蝶ですか?」と尋ねると、先を越したように「えー、でも、シルビアじゃないですヨ」という。「ツマグロヒョウモン」が温暖化のせいか北上中なので、それを調べているとか。「申し訳ないが、シルビアである、なしにかかわらず採捕は禁じられているんです」と説明。

早速、できたばかりのホームページアドレスカードを渡す。「加藤さんがやっている団体ですか・・・」という。彼の話では、午前中に千葉からやってきたという人もいたそうだ。ゆうゆうパーク附近は人出（人目）が多いせいか、これまで昆虫愛好家の姿は見ていない。

（理事 佐藤 裕）

## ☆☆ 河川愛護団体で表彰 ☆☆

9月20日 国道交通省関東地方整備局下館河川事務所で、成田一郎所長より表彰状と記念品を受けました。カワラノギクやミヤコグサの保全活動や、河川の清掃活動が評価されたものです。

## ☆☆ 「鬼怒川河川敷の植生とその保全」学習会開かれる☆☆

8月19日（土）さくら市ミュージアム 一荒井寛方記念館一 講座室で、本会と栃木県水条例策定ネットワーク共催による学習会が開催されました。東京大学保全生態学研究室鷺谷いづみ教授の講演の演題は「生物の多様性の保全」。主として鬼怒川での砂礫質河原の自然再生の取り組みを中心に話をされました。生態系：エコシステムの話から、生態系サービスと人間の幸福（さまざまな生態系サービス）等々盛りだくさんの内容でした。講演の終了後、体験室で鷺谷先生を囲んで懇談会も開催されました。



さくら市ミュージアム講座室で  
東京大学保全生態学教授 鶴谷いづみ先生の講演

## ☆☆ 奉仕作業に協力 ☆☆

9月2日 さくら市ミュージアム関係の諸団体が集まり「みんなのひろば」の民家広場の除草作業を実施しました。9月9日から行われる「みんなのひろば」の活動が気持ち良くできるようになりました。



## ☆☆ 写真講座を開催 ☆☆

9月16日 第2回写真講座が開かれ、午前中は草花の撮影をしました。

「絞り優先」の手法で勝山城址に咲いている草花の撮影に挑戦しました。

ツルニンジン、ツリフネソウ(写真)、ヤマジノホトトギス、ヒガンバナなどに良い作品ができました。

午後は、講師の松田喬副会長の講義を受け、実際に撮影した作品を参加者全員で鑑賞しました。



作品の一例

## ☆☆ お丸山植物観察会 ☆☆

9月30日 喜連川のお丸山公園で植物観察会を実施しました。講師の田代俊夫顧問より、シモツケコウホネ(8月に新種として登録された)の話を聞きながら、キツネノマゴ、トキホコリ、ヤブミョウガなど80種類の植物を観察することができました。



## ☆☆ホームページURLカードを作成☆☆

R & Fパソコン教室(福島 徹さん)の協力で、鬼怒川河川敷監視パトロールの時に使用するシリビアシジミ等の採集者へ渡すためのカードを作成しました。

前面にはホームページのアドレスを、裏面には保護活動を行っている旨の説明があります。会員で必要な方は加藤会長まで申し出て下さい。大きさは名刺サイズです。

うじいえ自然に親しむ会  
ホームページ URL  
<http://www16.ocn.ne.jp/~uisizer/>  
(一時「チルダ」と読みシフトキーを押しながら「ピロ」の2つ右のキーを押します。)

私たち、さくら市指定の天然記念物「シリビアシジミ」の保護活動を行っております。  
また、さくら市では採取を禁止するだけでなく、生息環境の保全についても努力しております。  
保護活動にご協力ください。

前 面

裏 面

☆☆ 平成18年度 役員が決まりました。☆☆

会長 加藤 啓三

副会長 田代 英夫、松田 喬

理事 佐藤 康夫、石塚 賢二、菊地 庸夫、佐藤 裕

庶務 佃 清司、中野 英男

会計 早田 功、船津 幸夫

監事 薄井 敬二、吉沢 信行

顧問 中村 和夫、佐藤 馨、田代 俊夫、葛谷 健（新任）

よろしくお願いします